

「春ノ翔が今場所所収える出足で佐賀ノ海を一気に寄るのか、それとも佐賀ノ海が春ノ翔の出足を止めた攻防に持ちこむのか？」と注目の中、十日目注目の大一番に時計係から「時間です！」の音がかる。

両者五分の立ち合いで佐賀ノ海が春ノ翔の出足を止める。佐賀ノ海が右から攻めると、春ノ翔が左を差し込む体制になって青房下に寄り立てる。春ノ翔が勝ったか？と思われたが、佐賀ノ海の引きに春ノ翔が土俵につき、佐賀ノ海の足は大きくも俵の上。春ノ翔はついていないの？と確認する審判長の鹿賀乃戸親方。他の審判員も「ついてない！」と確認。「ありや！春ノ翔の連勝が止まっちゃったよ！」と鹿賀乃戸親方。



春ノ翔●(引き落し)○佐賀ノ海

これまで2場所連続全勝優勝したのは昭和29年の第9回から10回の横綱荒登(朝日松部屋)のみで、春ノ翔は史上2人目の快挙と更なる連勝を狙っていただけに桐壺親方も「残念！」と肩を落とした。この時点で、春ノ翔と佐賀ノ海、これから結びの一番をとる若ノ嶋の3人が1敗で並んだ。

結びは若ノ嶋と大関魁電の一番。過去の対戦成績は3勝3敗の五分。魁電は今日まで2勝7敗とすでに負け越しが決まっているが、直近の2場所は魁電が勝っているだけに侮れない相手。「とにかく若ノ嶋はこの一番に勝たないとね！」と千秋楽の春ノ翔戦で相星で雌雄を決したいと意気込む錦風親方。

シーンと静まり返る館内で立行司の軍配が返る。叩き手の勝間田親方も緊張して3度つき手十分で仕切り直しに。4度目はきれいに立ち上がり、若ノ嶋が左からすくって魁電の体を起こして向正面に寄り進み、そのまま寄り切る横綱相撲で



魁電●(寄り切り)○若ノ嶋

圧倒した。「強い！強い！」と磯ノ海親方。「若ノ嶋は強いなあ！これは本物だね！」と春日根親方。

十日目が終わって、若ノ嶋、春ノ翔、佐賀ノ海が9勝1敗と同じ星で並び、千秋楽の取り組みに決勝が持ち越され、迎えた千秋楽。結び前で佐賀ノ海が魁電と対戦。そして結びで若ノ嶋と春ノ翔が直接対決することになった。

千秋楽結びの一番で優勝が争われるのは久しぶりのこと。若ノ嶋は横綱在位17場所目だが、これまでは8勝が最高。今場所はすでにこれを上回る9勝をあげている。「まずは横綱として千秋楽まで優勝争いできてとても嬉しい。こうなったら是非でも悲願の横綱としての初優勝を！」と若ノ嶋。一方、春ノ翔も「連続優勝して横綱をつかみ取る！」と連勝記録が途絶えたとはいえ気合十分。

千秋楽の協会ご挨拶では「今場所は毎場所のように活躍しなかつた力士が千秋楽結びの一番で優勝がかかるという協会としては誠に喜ばしい形であります」と朝日松理事長が言葉を送る。「毎場所のように活躍しなかつた力士とは誰のことなんだ！はつきり力士の四股名を言え！」とヤジが飛んだが、朝日松理事長としても若ノ嶋の今場所の活躍が嬉しくて思わず出た言葉だったのだろう。



三役揃い踏みのおと関脇千代鈴と小結大神楽が対戦。「入幕2場所目で三役揃い踏みとはね。ここまで来たかかって感慨無量！」と千代鈴の師匠の春日根親方。初土俵以来3敗しかしたことがなかった千代鈴が今場所4敗したが、それだけ上位は



千代鈴○(寄り切り)●大神楽

強いということなのだろう。大神楽は「再び大関を目指して！」と期待されたが、ここまですで4勝6敗と負け越しで出直しとなった。

千代鈴はこの一番に勝てば技能賞受賞という一戦に寄り切りで勝って7勝4敗として技能賞を獲得した。

千秋楽は残り注目の2番を残すのみ。まずは佐賀ノ海と魁電の大関同士の取り組み。過去には佐賀ノ海の2勝3敗。先場所は魁電が寄り切りで勝っている。佐賀ノ海が勝てば優勝決定戦進出となり、負ければ結びの若ノ嶋と春ノ翔の勝者が優勝となる。

注目の一番は、魁電が低く出るところを佐賀ノ海が引くと魁電がぱたりと土俵をはった。佐賀ノ海が引き落として勝って10勝1敗として、結びの若ノ嶋と春ノ翔の勝者との優勝決定戦で優勝が争われることとなった。



佐賀ノ海○(引き落し)●魁電

そして、今場所最高の12本の懸賞がかかった結びの一番、若ノ嶋と春ノ翔が土俵に上がる。過去には若ノ嶋の6勝8敗。立行司のこの相撲一番にて千秋楽！との結びのふれが発せられると、場内から自然と拍手が沸き上がった。千秋楽結びの一番で拍手がわくというのは珍しいこと。ともに1敗同士で優勝に関わる横綱大関の一戦に対する注目の高さがいかに知れる出来事だった。

「錦風さん、この相撲はどうですか？」と朝日松理事長。「このところ春ノ翔に4連敗だからね。春ノ翔は出足がいいだけに立ち合いで出足を止められるかだね。」と錦風親方。「春ノ翔は昨日負けたか前に出ているからな。今場所は春ノ翔が押されたところをみて残せるかどうかだね！」と朝日松理事長。



親方衆が固唾を飲んで見守る中、立行司の軍配が返って立ち上がる両者。春ノ翔がいい当たりをみせるがこれを若ノ嶋ががっちり受け止める。そこから若ノ嶋が寄って攻勢に出る。「若ノ嶋が押し！押し！」との実況に館内のボルテージも最高潮。がっぶり四つつまら若ノ嶋が青房下に寄ると、春ノ翔がたまたら土俵を割った。

「よしっ！勝った！」と錦風親方。「強いなあ！」と磯ノ海親方。「いい相撲だったね！」と香具山親方が続く。「この相撲は永久に残るねえ！」と春日根親方が言うように優勝を争う横綱大関の千秋楽結びの一番に相応しい相撲内容だった。若ノ嶋は横綱として最高の10勝目をあげて、悲願の優勝を賭けて決定戦に臨むことになった。

「これで、佐賀ノ海との決定戦だね！」と鹿賀乃戸親方。「若ノ嶋が今度は東にまわることにするからね！」と朝日松理事長。今場所の優勝は、ともに10勝1敗とした若ノ嶋と佐賀ノ海という同部屋の決定戦で争われることになった。

「錦風さん、2人はどうなの？」と朝日松理事長が尋ねる。「左を差せば若ノ嶋だけだ。佐賀ノ海がど輪に来ると佐賀だね！稽古場だと若ノ嶋の7対3くらいだね！」と錦風親方。「まさか、この大事な一番で佐賀ノ海が悪さをしないよね？」と鹿賀乃戸親方。同部屋の2人による優勝決定戦は、第117回の鹿賀乃戸部屋横綱英と前頭五枚目の鹿賀が9勝2敗同士で行なった決定戦以来、5例目。

今年最後の場所の優勝決定戦は東から若ノ嶋、西から佐賀ノ海が上がる。「さあ！横綱がんばれ！」と香具山親方。佐賀ノ海には申し訳ないが、観衆、親方衆は若ノ嶋に悲願の横綱初優勝をさせてやりたいというのが大勢だ。

決定戦の一番は、佐賀ノ海が踏み込みよく当たり、すぐに得意のど輪で攻める。若ノ嶋はこれを必死に堪えて青房下に押し返す。佐賀ノ海の足が俵に乗るが左に回り込みながらこれを残す。ここから左を差し気味になおものど輪で押すと若ノ嶋はこれを残すことができずに土俵中央で押し倒された。